

2009年を語る

試行し、効果があれば、市民の皆さんにも勧めてみたいと思っています。

吉業 私たち自身も日ごろから心がけたり、身近なことから取り組むことができるんですね。徒歩や自転車での通勤は、環境に優しいだけでなく体にもいいですね。

市長 温暖化の問題は、地球全

体として大きな問題となっています。行政だけの取り組みだけでは、達成できないものです。ぜひ、皆さんにも環境意識を持ってもらい、市と一緒に、皆

生きがいの持てるあたたかいまち

さんの家庭でも取り組めることがあるので、少しずつでいいです。環境問題の取り組みは、皆さんが主役です。

宮本 私は、福祉について勉強

していますが、特に高齢者福祉について気になることがあります。これからますます、高齢化が進んでいくと思いますが、市ではどのような対策を考えているのでしょうか。

市長 福祉を勉強しているということは、頼もしいことです。

確かに高齢化社会は急速に進行し、介護や支援を必要とする高齢者も増加することが予想されます。高齢者が住み慣れた地域や家庭で、社会の一員として自立した生活を送るためには、在宅を基本とした各種サービスの提供はもとより、できる限り介護が必要な状態にならないよう、介護予防と生活支援の充実が一層重要となっています。

また、介護や支援を必要としない高齢者に対して、高齢者一人ひとりが生きがいの持てる環境を整備するため、市では、社団法人市シルバー人材センター

において定年退職後の就労の場の提供を図っているほか、高齢クラブ活動など高齢者同士の交流や社会活動を支援しています。

合併により市民の生活圏が広域化して、行政のサービスエリアが大きくなる一方で、市民

安全・安心な活力ある農業のまち

宮本 農業が最近見直されていますが、一方では若者が農業から離れていることが気になりますね。つくばみらい市の農業は、どのような形であるべきだと考えていますか。

市長 市の基幹産業は農業です。これからの農業の発展に力を入れていかなければと考えています。農業に就労する人口が減ってきています。特に若い世代の方が離れていっています。

市としても関係団体などと協

サービスはよりきめ細かな対応が必要になってきています。

そのため、今後積極的に民間の活力を市政の中に導入し、市ができる部分と民間の活力で補ってもらえる部分とをわけ、より効率性・弾力性のある総合的なまちづくりを目指しています。

宮本 行政と民間の長所を活かすわけですね。私たち若い世代にもできることはありますか。

市長 若い世代の方々と高齢者の皆さんが共に支え合い、そして協力し合う、協働支援のまちを一緒につくっていただきたいと思っています。

力し、相談から就農までの支援体制を整備するなど、今後、若い世代の方々が農業に興味を持つことができ、農業を営みやすい環境整備を行っていききたいと考えています。

また最近では、輸入食品への毒物や殺虫剤の混入問題、さらには食品産地偽装など、食生活への安全や安心が損なわれる残念な事件が続いています。このような中で、市では、生産者と消費者をつなぐ取り組みをしています。